

# 耳鼻咽喉科臨床研修プログラム

## 研修の到達目標

安全に配慮して耳鼻咽喉科領域の一般的な診察ができる。検査方法や機器を十分に理解して検査結果を評価することができる。

### 耳鼻咽喉科研修中に身につけるべき資質・能力 【技能・問題解決・解釈・態度】

1. 耳・鼻・咽喉頭・頸部の診察ができ、診断、治療を行う能力をつける。
2. めまいの診察、検査から鑑別診断、治療ができる能力をつける。
3. 鼻出血の止血法など、外来処置について理解し手技を行う能力をつける。
4. 各種検査の適応を理解し適切に指示、施行できる。検査結果を適切に評価する能力をつける。
5. 当科で施行する手術について、適応や意義を理解し、助手を務める能力を身につける。術前、術後の管理を適切に行う能力をつける。

## 研修方略

### On the job training (ON-JT)

外来診療：外来診察の見学・実践

病棟診療：入院患者の診察、カルテ記載、手術の見学・助手、カンファレンスに参加

長期にわたる研修や選択期間を利用した2回目以降の研修は、研修医と相談のうえ、新たな研修目標を設定し、目標達成のための研修方略の項目を追加する。

### Off the job training (Off-JT)

講演会等に参加する。

## 週間予定表

曜日	午前	午後
月	外来診療	嚥下機能検査、外来診療
火	手術	手術、平衡機能検査
水	外来診療	嚥下機能検査、外来診療
木	外来診療	嚥下機能検査、外来診療
金	外来診療	嚥下機能検査、外来診療 摂食嚥下カンファレンス

## 評価

### 研修中の評価（形成的評価とフィードバック）

- 1 週間予定表に示した On-JT のさまざまな経験の場で、SBO の達成状況について、指導医、上級医、指導者による形成的評価を行う
- 2 OMP、一日の振り返り、SEA が中心的なフィードバックの機会となるが、それ以外の場でも、適宜指導医、上級医、指導者による形成的評価が行われる（指導医による診療録のチェックなど）。
- 3 一日の振り返り、SEA は、研修医自身の振り返り（省察）の場としても用いる。

### 研修後の評価

#### 研修医に対する形成的評価

- 1 研修終了後に PG-EPOC に研修医が入力した自己評価を元に、指導医、上級医が評価する。メディカルスタッフは現場評価表を用いて評価を記載する。
- 2 1.の評価表を集約して、責任指導医が PG-EPOC で研修医評価表 I、II、III に達成度評価を記載する。
- 3 経験すべき症候、疾病・病態については、研修中に作成された病歴要約について、指導医は考察も含めてその内容を確認し、十分な経験がなされたと判断した場合は、PG-EPOC で承認をする。内容が不十分な場合は修正を求める。
- 4 1-3 はプログラム責任者に提出され、定期的な形成的評価とフィードバックに役立てられる。
- 5 研修終了時に研修医は自己評価表に記入する。これもプログラム責任者に提出され、形成的評価とフィードバックに役立てられる。

#### 指導医、研修プログラムに対する形成的評価

- 1 研修終了後に、研修医は PG-EPOC 上で、メディカルスタッフは指導医に対する評価表を用いて評価を記入する。
- 2 1.はプログラム責任者に提出され、臨床研修管理委員会などの場でフィードバックが行われ、指導医の指導状況と研修プログラムの改善のために活用される。

### 総括的評価

耳鼻咽喉科研修では、総括的評価は行われない。

2 年間の研修修了時に臨床研修管理委員会が修了判定の総括的評価を行うが、耳鼻咽喉科研修の形成的評価もその材料となる。

**耳鼻咽喉科が学修の場として適している、経験すべき症候、経験すべき疾病・病態**

#### 経験すべき症候

難聴、めまい、鼻汁、鼻閉、鼻出血、咽頭痛、嚥下困難

**指導体制**

**研修責任者**

山田貴裕

**指導医**

朝日香織

**上級医**

山田貴裕

**指導者**

すべての指導者が、研修中のさまざまな場面で指導にあたる（指導者名簿参照）